

## 青葉区少年野球連盟Tボール規約

2021年4月1日改定

### 1. 大会適用規定

青葉区少年野球連盟大会規定を適用し、青葉区ティーボール特別ルールを採用する。

### 2. 参加規定

- (1) 9名以上とし、18名以上の場合は2チーム参加を認める。  
当日までの追加登録は可能、参加選手はスポーツできる服装で帽子着用とし、未就学児の参加を認める。  
尚、所属チームでのスポーツ保険等の加入を条件とする。
- (2) AクラスもしくはBクラスとの重複は認める。  
ティーボールの試合日程は、決勝戦を含めワン・デイ（1日または2日間）開催とする。
- (3) 青葉区内チーム同士の連合チームは認める。

### 3. 大会参加費

¥3,000- / チーム

### 4. 青葉区ティーボール特別ルール

- (1) トーナメント戦とする。(Bクラス同様に親善試合を含め最低2試合とする。)
- (2) 試合は5回戦とする。  
但し、試合開始後30分を経過したら、試合の回数に関係なく正式試合となってその回が最終となり、新しいイニングに入らない。コールドゲームは適用しない。5回終了時点で同点の場合、試合時間が30分を過ぎていない場合は、延長戦を行う。延長戦終了時点で同点の場合、準決勝までは抽選により勝敗を決定する。決勝戦のみタイブレーク方式を1イニング行い、尚同点の場合もう1イニング行い、それでも同点の場合は抽選により勝敗を決定する。
- (3) 塁間18.3m（塁間にはハーフラインを設ける）内野側ファールライン半径4.5m、ピッチャーサークルは本塁より12.3mの位置を中心に半径2mの円とする。本塁よりフェアグラウンド内へ扇状に45mラインを設ける。
- (4) キャッチャーはヘルメットを着用し、審判を軸として打者の反対方向に位置し、バットの放り投げによる安全を確保する。  
又、内野手は打撃前にピッチャーより前の本塁側で守ることは出来ない。
- (5) ホームランは45mラインをノーバウンドで超えた打球とし、それ以外で抜けた打球は2塁打（テイク2）とし、送球によるボールデッドもテイク2とする。
- (6) 守備は9名、守備交代は自由、打者は登録メンバー全員が打つ。
- (7) プレー中ピッチャーへ返球し、ピッチャーサークル内でボールに触れた時、ボールデッドとする。  
但し、走塁中の時は、ランナーに走塁権を与える。（塁間のハーフラインを越えていること）
- (8) 守備側の監督またはコーチ（2名まで）フィールド内での指導を認める。  
尚、プレー中のボールに触れた時は、触れた時点でボールデッドとなり、テイク2とする。攻撃側の監督またはコーチは、コーチャーボックスでの指導を認めるが、選手に触れての指導は認めない。
- (9) 攻撃は、3アウトまたは打者9名でチェンジとする。9人目のバッターを迎えた場合、その時点でアウトカウントに関わらず2アウトとしてプレーする。

- (10) 走者は、打者がボールを打つ前に離塁はできない。
- (11) 2ストライク後の空振り又はファールはアウトとする。  
尚、フルスイングと認められない打撃（バント、ハーフスイング及びティースタンドのゴム打ち打球）は空振りとみなし、ストライクとする。
- (12) バットは各チームで2本とし、75cm以下とする。但し、コロナ感染対策としての複数本のバット使用を認める。
- (13) 参加メンバー全員に背番号をつける。
- (14) 試合当日に選手が9名に満たないチームは、相手チームと協議の上試合は出来るが敗退とする。
- (15) 試合球は各チーム1個ずつ出し合い、メーカーは「ゼット」を使用する。試合球は使いまわしを基本とするが、損傷がひどい場合は主審の判断で当該チームに新ボールを要請する。
- (16) ダブルベース等のティールボール必要品は、当該チームが持参とする。
- (17) 試合前のシートロックは行わない。

## 5. 試合審判

- (1) 主審は当該チーム以外で行うことを基本とする。
- (2) 塁審は当該チームより2名出し合い、相手ベンチ側の塁審を担う。
- (3) チーム審判は、審判服若しくは類似系の服装とし、横浜市青葉区少年野球連盟のビブス着用で選手との見分けとする。（所属チームユニホームおよび帽子は禁止）
- (4) 審判はご父兄がチーム審判となり試合を行う。

**表彰** Tクラス優勝～3位に賞状、賞品等を授与する。